医療法人
社会福祉法人 養和会

きやらぼく

No.264

令和3年9月発行

医療法人養和会は創立70周年を迎えました。

※表紙写真は、ボッチャで使用するボールです。

CONTENTS

- 養和会レポート
  - ・創立70周年からみた未来への展望
- information
  - ・ボッチャ贈呈式
  - ・東京パラリンピック出場
  - ・開院記念 夏祭り
  - ・野球部 試合結果
  - ・養和な人

養和会グループの求人募集はこちらから

engage 養和会 検索

「創立70周年からみた未来への展望」

院長　古瀬 清夫

世界の創業100年以上の企業が総計8万66社ある中で、日本の企業は41.3%の33076社、さらに創業200年以上の企業では、日本が65%を占め、共に1位になるという（日経BPコンサルティング'20年3月調査）。

これらの企業に共通する特徴は、①不易と流行を持ち合わせている②独自の使命が明確に言語化されている③業界の常識にとらわれない発想を持つ④社員を大切にしている⑤世の中、地域への貢献を実践している⑥リスクに備えている⑦成長意欲が高く学び続けている。（VISION）。

この7つの項目と医療法人養和会が取り組んでいる課題とを「精査」してみることも創立100年に向けて一つの方策かもしれない。

「不易流行」とは、木に例えると「不易」は幹や根（理念）、「流行」は葉や花、実の部分（企業戦略）と捉えると理解できる。②～⑦は誰でも理解できるが、未来に向けた「リスク」への配慮が必要かと考える。「SDGs」（Sustainable Development Goals持続可能な開発目標）が我々に参考となる喫緊の課題と考える。

VISIONは1500年頃創業、500年以上続いている超老舗企業「虎屋」の例をあげている。創業以来、「おいしい和菓子を喜んで召し上がって頂く」という使命を掲げつつ（不易）、価値観や味覚といった時代の変化に合わせて商品や業態を変化させ（流行）、「トラヤカフェ」などの新しい誕生を生み出していると超老舗の秘術を説明している。

振り返って、令和3年度事業計画をみると、養和会はご利用者の幸せ・地域の幸せ・職員の幸せを追求して（理念;不易）、①感染管理強化による安定した事業継続、②グループ内連携による事業の展開と利用者の確保、③企業統治の基盤作り、④職員の健康を第一にした健康経営の推進、⑤SDGsに連携した事業運営の推進が法人戦略（流行）となっている。

この事業計画の進捗状況は「四半期レビュー」や「毎月の経営見える化」の実施などさまざまな方法や手段で審議されているが、法人戦略に「実りある」果実となっているかどうか?絶えず猛省する必要があろう。

医療法人養和会が社会福祉法人養和会と共に中核多機能病院・施設の不沈連合体として医療、介護、福祉の分野で安心・安全をもってご利用いただき、相互に「幸せ」を得るには、困難や苦難を耐え抜けていける人財を育成して、ほう（報告）・れん（連携）・そう（相互確認）・そう（相互信頼）のできる風通しの良い企業体に成長することこそが未来の展望を開く鍵ではなかろうか。私は普段から「雑学」に努めれば、必ずや「宝石」は見つかるものと信じているが・・・

ボッチャ贈呈式

医療法人養和会は、法人創立70周年記念として、米子市内全小学校にボッチャ用具一式を寄贈し、その贈呈式を8月11日（水）、米子市役所にて行いました。

東京パラリンピックの正式種目であるボッチャ競技が行われたことを契機に、子供たちに障がいのある人もない人も同じスポーツをすることで共生社会について理解を深めてもらい、また、ボッチャの魅力や楽しさに触れてもらえればと、創立記念事業の一環として、寄贈することといたしました。ボッチャ用具一式は、9月末までに米子市内全小学校へ配付される予定です。

【寄付の概要】

ボッチャ用具一式－米子市内全小学校23校（9校（4セット）、14校（2セット））

寄贈させていただいたボッチャセットを活用して、ボッチャを通じた共生社会の実現につなげていきたいと思います。ボッチャを体験したい方は、米子サン・アビリティーズ（23－0699）までご連絡ください。

メディカルフィットネスセンターCHAX　石丸 知（鳥取県ボッチャ協会会長）

CHAX 障がい者アスリートチーム所属
安野祐平選手
東京パラリンピック出場　歴史に名を刻む

熱戦が続いた東京パラリンピックに鳥取県で唯一出場した安野祐平選手（陸上男子100mT33クラス）を応援しました！米子コンベンションセンターを中心に養和病院内の各会場からリモートでつながり応援しました。3年後のパリパラリンピックに向けて頑張り続ける安野祐平選手をみんなで応援しましょう！

開院記念　夏祭り

療養病棟では「納涼会」を行いました。生演奏を聴いたり、魚釣りやかき氷を食べたりとみんなで夏を満喫しました。仁風荘通所では「夏祭り」を開催。昔懐かしのヨーヨー釣りをしたり、「ヤシの実運びゲーム」では白熱したチーム戦で大いに盛り上がりました。その後かき氷を作って火照った体を冷やしました。

養和会野球部

第76回国民体育大会中国地区ブロック大会は力及ばず敗退しました。沢山のご声援を頂きありがとうございました。今シーズンの全国大会に繋がる大会は全て予選敗退となりました。中国大会を経験し、力不足を痛感しました。敗戦を活かし来シーズンは全国大会3つすべてに出場できるように、力をつけていきます。今年もコロナ禍で野球ができる環境を与えてくださったことに感謝しています。本当にありがとうございました。

今後とも養和会野球部をよろしくお願い致します。

（野球部　主将　足立大樹）

【試合結果】倉敷マスカットスタジアム

8/21（土）広島県代表　2-9　敗戦

8/22（日）山口県代表　5-8　敗戦

養和な人

今月のエキスパート **Vol.5**

This month's expert

2020年7月号のきゃらぼくの表紙には、フラワーフォトコンテストで優勝した認知症病棟の写真を掲載した。その写真を撮影したのが認知症病棟看護師の石橋さん。

石橋さんは2013年に姪っ子、甥っ子が誕生してから、デジタルカメラで彼女たちの写真をたくさん撮るようになった。そして、「もっと彼女たちをよりきれいに撮影したいー。」という思いから、初めて一眼レフカメラを購入した。その後、姪っ子たちの人数が増え、カメラは大活躍。

そして、以前から好きだった空や飛行機もカメラで撮影してみたいと、2018年、風景の撮影に適した一眼レフカメラを新たに購入し、本格的に空や飛行機を中心とした写真の撮影を始めた。航空写真家の写真集を購入し、いつかこういう写真が撮りたい！と自分でカメラの撮影方法を試行錯誤しながら写真を撮り続けた。

石橋さんの自宅から自転車を数分こぐと米子空港に到着する。そこでカメラを構え、飛行機と太陽、飛行機と雲、飛行機と虹の写真を撮る…。その写真のほとんどが単体ではない。時には飛行機が雲を引き立て、時には太陽が飛行機を引き立てているように見えるとても素敵な写真ばかりが撮影されている。普段、何気なく見ている雲や太陽、飛行機だが、石橋さんが写真を撮ると、幻想的なものへと変化する。インスタグラムを始めて、これらの写真を投稿するようになると、「いいね」の数が、多い時には5千に達することも。そして、今年5月、石橋さんが撮影した飛行機と虹の写真を全日空のインスタグラムにて紹介していただいたという。（写真①）

写真①

新型コロナウイルスの感染が拡大する前は、全国各地の空港や航空祭に出向いては写真を撮影する日々を送っていたそうで、時には夜勤が終わった後、写真を撮るためにそのまま伊丹空港まで車を走らせたことも。

しかし、最近は県外に行って撮影することができない上に、米子空港の飛行機の発着の便数も減便となり、チャンスは少なくなったが、それでも「『米子空港と夕焼け』ってとても素敵なんですよ。」と嬉しそうに話してくれた。

石橋さんのインスタグラム

石橋明憲

所属：認知症病棟主任

職種：看護師（平成26年入職）

写真歴：8年

養和会

養和会理念　養和会はご利用者の幸せ　地域の幸せ　職員の幸せを追求します。

こちらからHPもご覧ください　養和会

医療法人養和会　〒683-0841 米子市上後藤3丁目5番1号　TEL 0859-29-5351　FAX 0859-29-7179

社会福祉法人養和会　〒683-0841 米子市上後藤8丁目9番23号　TEL 0859-48-0483　FAX 0859-48-0484

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

※写真・作品などに関しては、ご本人の了解を得て掲載させていただいております。